

台湾景気状況 – 2026年9月 –

住友商事グローバルリサーチ株式会社 経済部 2026年9月18日

Contents

01	台湾景気の総括 マクロダッシュボード	02
02	注目テーマ AI・半導体サプライチェーン	03
03	実体経済 GDP／PMI／鉱工業生産／消費／輸出／住宅市場／対外部門	06
04	金融市場 市場動向／信用動向／健全性／直接投資動向	12

台湾マクロ経済ダッシュボード（2026年9月時点）

今月の総括



- AI・半導体主導で製造業の拡大が続き、景気は高水準を維持
- 製造業の受注・生産・雇用が加速する一方、サービスは鈍化
- 住宅調整と業種間格差が残り、景気回復の裾野はなお限定的

総合判断（景気モメンタム）

緩やかに
改善

景気モメンタムは製造業を軸に改善する一方、非製造業の減速から回復の裾野は限定的

主要マクロ経済指標（景気モメンタム）

注：景気基調＝4四半期比較、足元変化＝前回値比較、足元動向＝短期トレンド比較、中期動向＝半年トレンド比較

主要指標：↑ 改善（トレンド上向き）→ 横ばい ↓ 悪化（トレンド下向き）

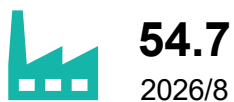
注：矢印は各指標のモメンタム評価

GDP成長率
（前年比）

景気基調



製造業PMI



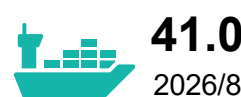
足元変化

小売売上高
（前年比）

足元動向

鉱工業生産
（前年比）

足元動向

輸出
（前年比）

中期動向

住宅市場・売買件数
（前年比）

足元動向

CPI
（前年比）

足元変化



失業率



足元変化



景気ヒートマップ（分野別の景況判断）

ヒートマップ：↑ 改善 → 横ばい ↓ 悪化

消費



持ち直しも、サービス需要の勢いは弱含み

AI・半導体



受注から設備・工場建設への波及が強まる

生産（鉱工業）



電子関連を中心に受注・生産・雇用がそろって加速

不動産（住宅市場）



改善方向も、信用規制下で取引は低水準が続く

外需（貿易）



財輸出は高成長を維持するも、サービス輸出は低迷

金融・為替



改善方向も、株価変動と企業コスト上昇が重石

雇用



労働市場は安定も、非製造業の雇用増勢は鈍化

景気先行きの注目ポイント

- 製造業受注・生産の高水準持続
- サービス受注・輸出の持ち直し
- 住宅取引・融資の持ち直し
- 投入価格上昇と販売価格への転嫁
- 高成長一巡後の成長ペースと対外リスク

注：矢印・色は各指標の評価基準に基づく判断

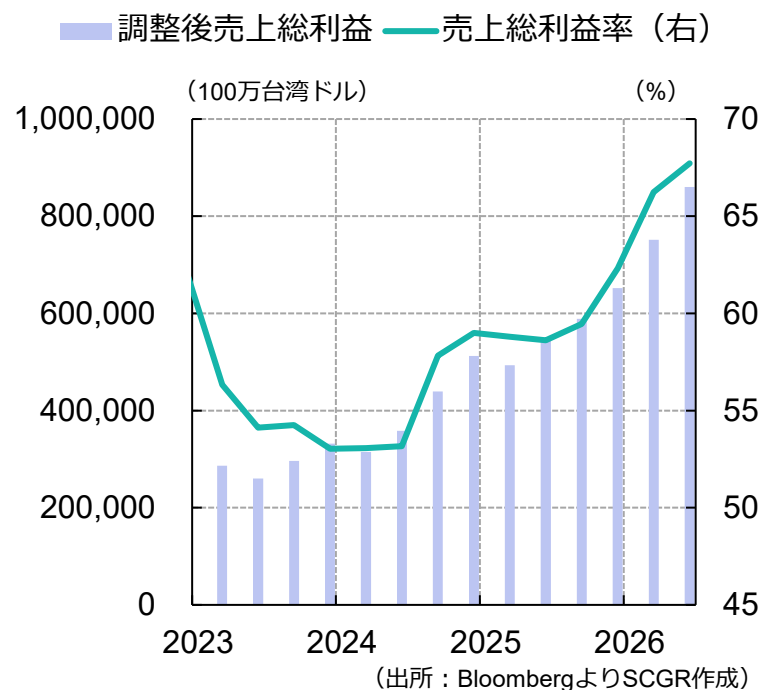
（出所：台湾行政院主計総処、台湾經濟部、台湾財政部、Bloombergより住友商事グローバルリサーチ（SCGR）作成）

AI・半導体サプライチェーン①

- AI需要の強さが半導体から電子機器、設備投資へ波及
- TSMCの増収・収益性向上に加え、情報通信輸出も高い伸び
- 需要の波及はデータセンターや関連インフラにも広がる

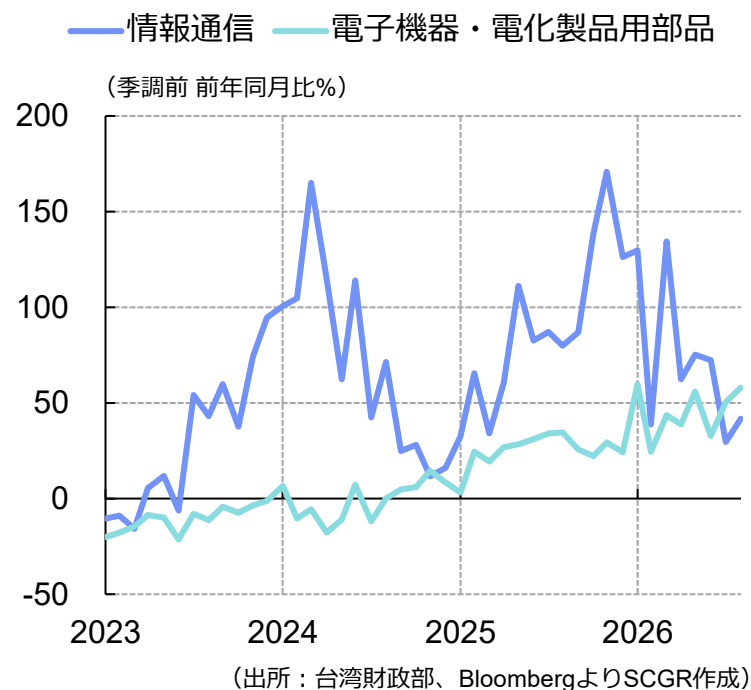
TSMC業績

- 売上高と利益率は上昇基調
- 2025年以降、収益力が一段と向上
- 先端半導体がAI供給網の中核を担う

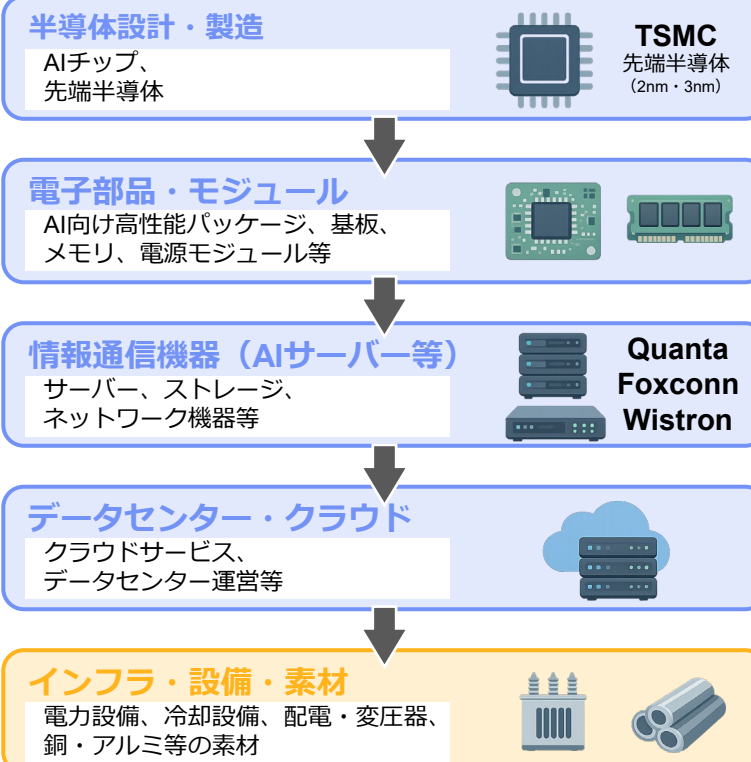


情報通信・電子機器輸出（前年比）

- AI関連需要が輸出拡大をけん引
- 情報通信輸出は増勢一服も依然高い伸び
- 電子部品も増勢を維持



AIサプライチェーンの構造



AI需要が輸出・設備投資へ波及

AI・半導体サプライチェーン②

- 主要3社の利益額の拡大は続く一方、利益率の動向には差が生じている
- Foxconnは利益率が安定する一方、Quanta・Wistronは変動が大きい
- AI需要の恩恵は広がるが、収益性への波及にはばらつき

広達電腦（Quanta）業績

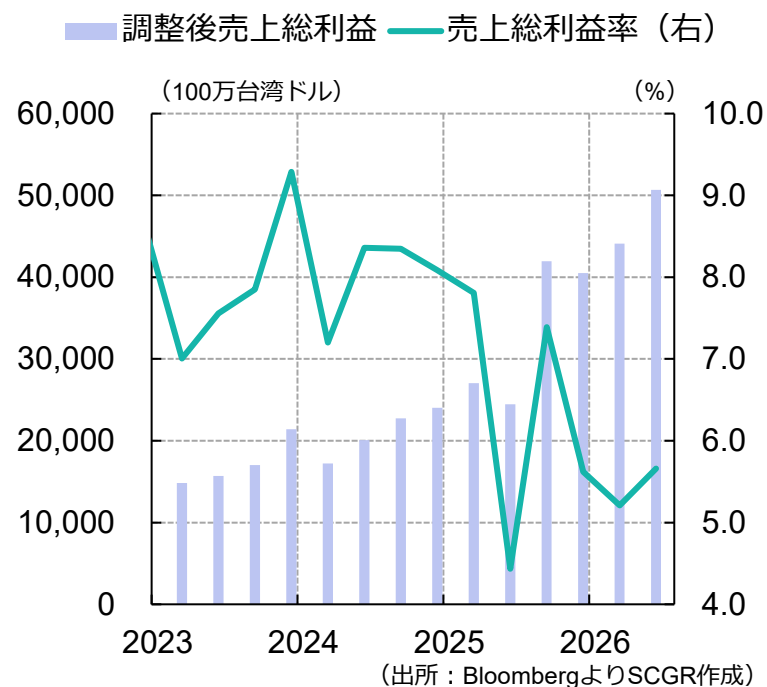
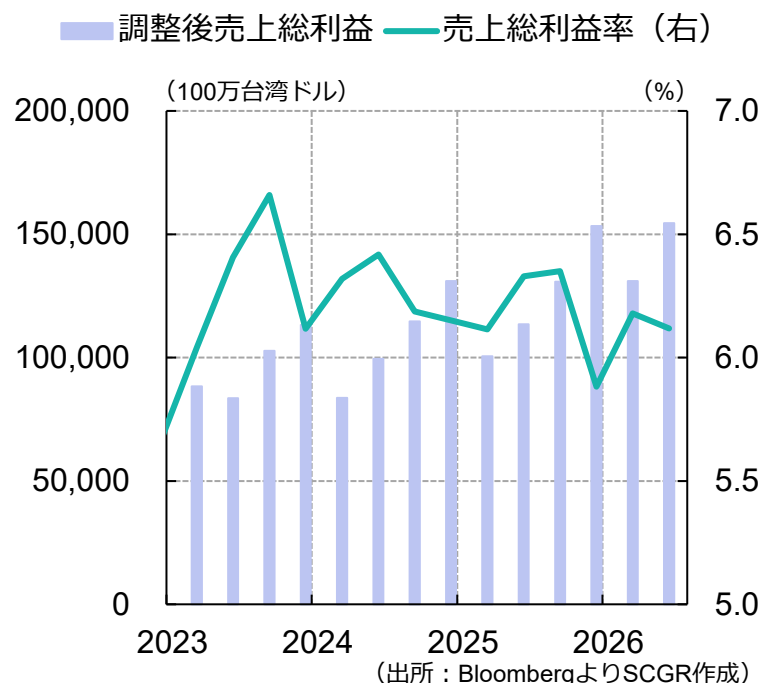
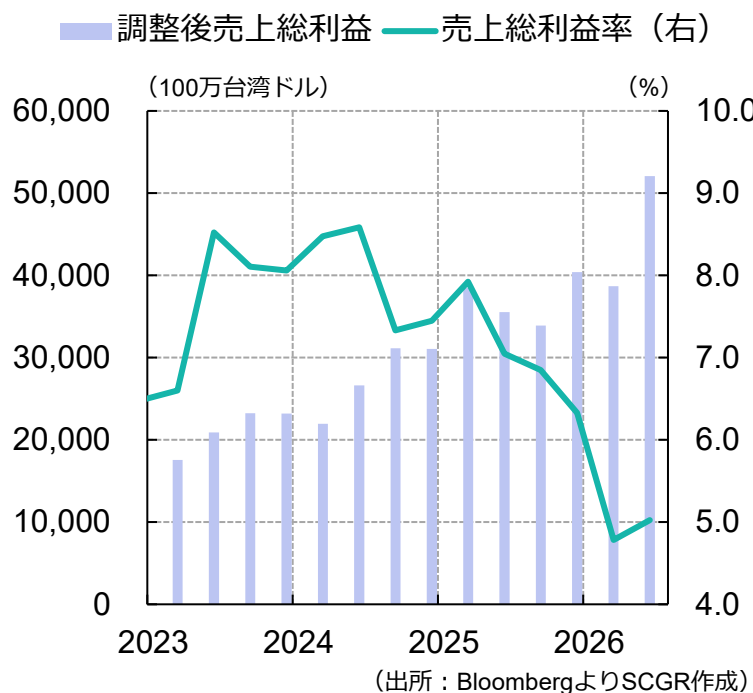
- 利益額は足元で一段と拡大
- 利益率は大幅低下後に小幅反発
- 利益拡大に対し利益率は低水準

鴻海精密工業（Foxconn）業績

- 利益額は高水準で増加基調
- 利益率は6%前後で比較的安定
- 規模拡大の中でも採算は安定

緯創資通（Wistron）業績

- 利益額は2025年以降急拡大
- 利益率は急低下後、5%台へ回復
- 利益拡大に対し利益率の振れは大きい



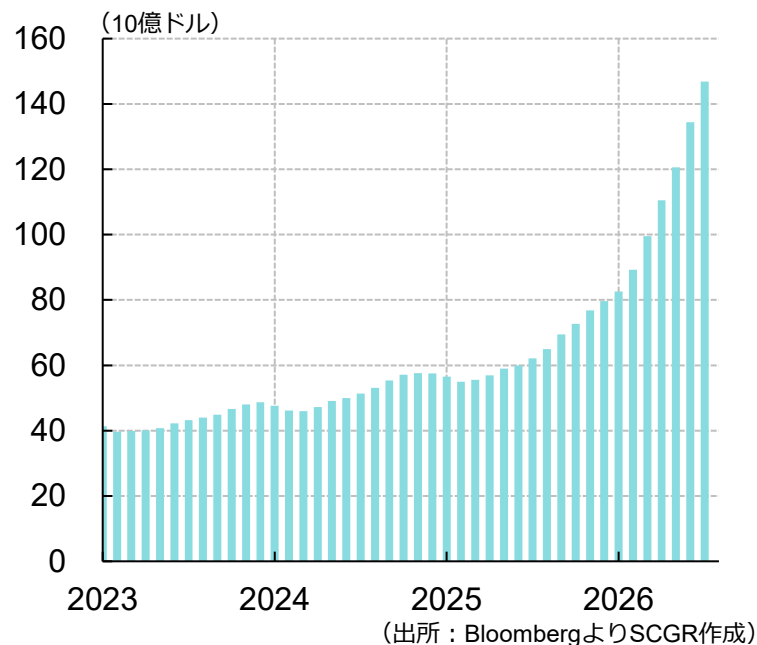
AI・半導体サプライチェーン③

- 世界半導体売上高は増勢を強め、米製造業景況も拡張圏へ上昇
- 実需と景況感が上向く一方、半導体株は急伸後に調整
- 半導体需要の拡大基調は強いが、市場評価の振れは大きい

世界半導体売上高（WSTS）

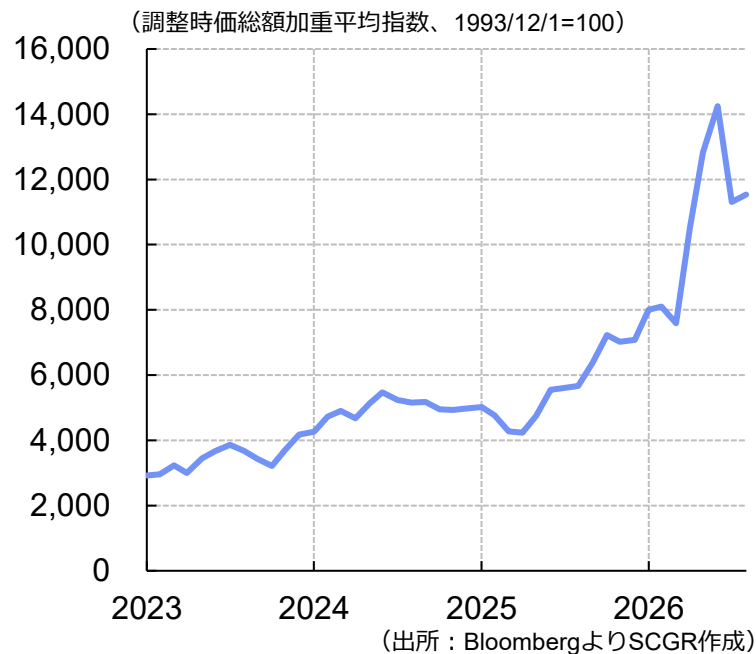
- 売上高は2026年に増勢が加速
- 足元で増勢加速
- 半導体需要の拡大基調は強い

注：WSTSは3カ月移動平均ベースの世界半導体売上高



米半導体株指数（SOX）

- 指数は急伸後に調整
- 高値圏ながら値動きは大きい
- 需要期待の強さと変動性が併存



米ISM製造業景況指数

- 指数は2026年に50超へ上昇
- 製造業景況は拡張圏へ転換
- 台湾輸出を支える外需環境も改善

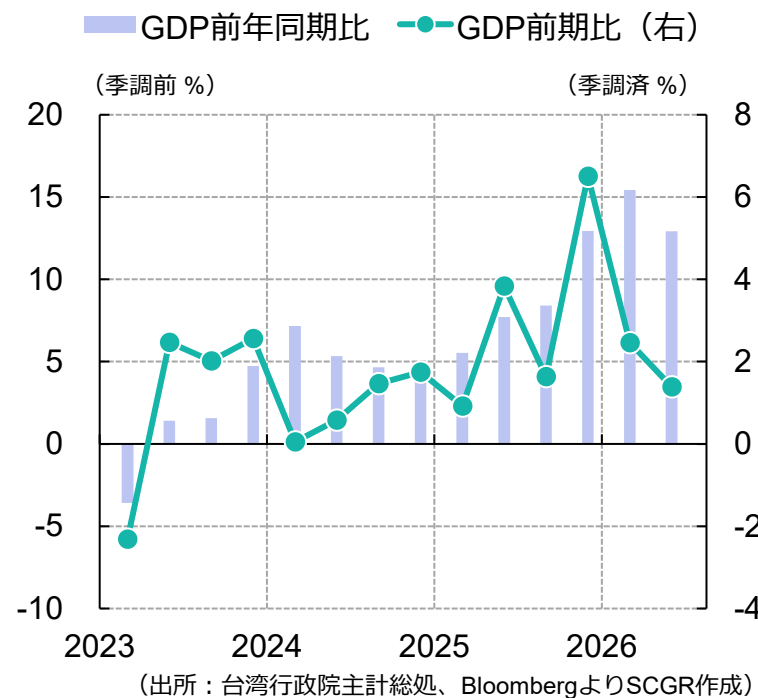


台湾の経済情勢

- AI・半導体需要を軸に高成長が続き、輸出受注がけん引力を強めている
- 製造業の景況感と輸出受注が上向く一方、業種間の景況格差はなお大きい
- 景気拡大は続くが、製造業・外需主導で成長の裾野には偏りが残る

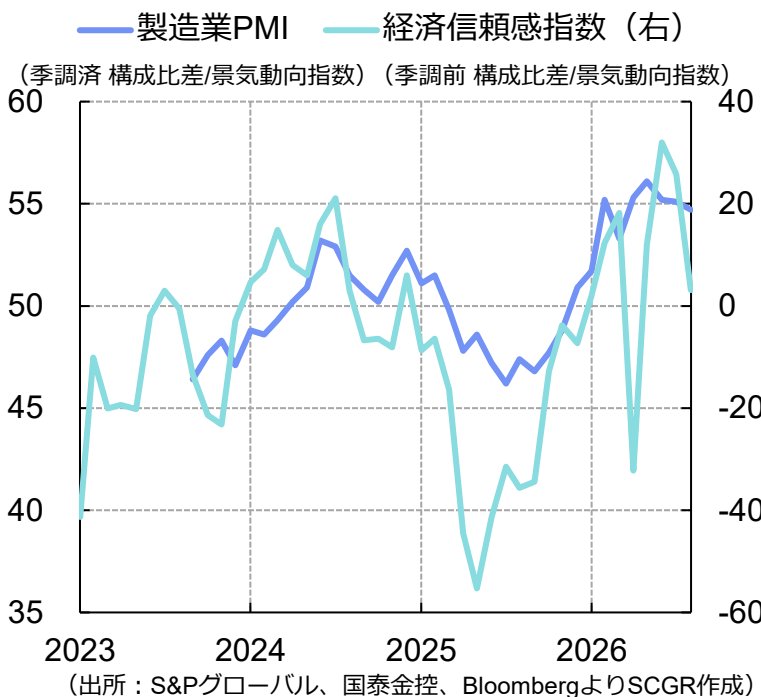
実質GDP成長率

- 実質GDPは高い成長率を維持
- 四半期の伸びは高水準から鈍化
- 高成長から成長ペース鈍化の局面へ



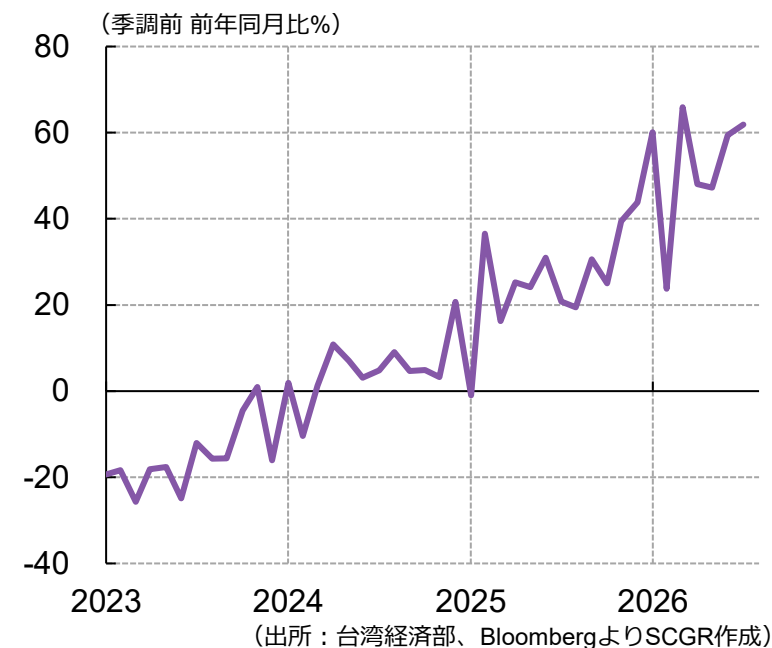
製造業PMI・経済信頼感

- 製造業PMIは拡張圏を維持
- 経済信頼感は振れを伴い改善
- 製造業の景況改善が鮮明



輸出 (前年比)

- 輸出は高い伸びを維持
- 振れを伴いつつ増勢が強まる
- 外需が景気のけん引役を担う

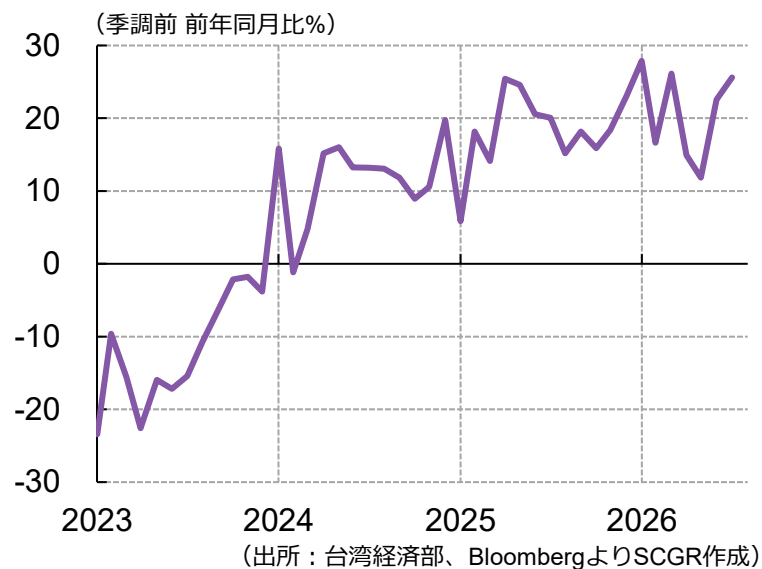


鉱工業生産

- 鉱工業生産は高い伸びを維持し、電子・ハイテク関連が増勢をけん引
- コンピューター関連の突出した伸びに加え、素材・設備関連にも改善がみられる
- 需要増が生産拡大につながる一方、生産構造は電子関連への集中が続く

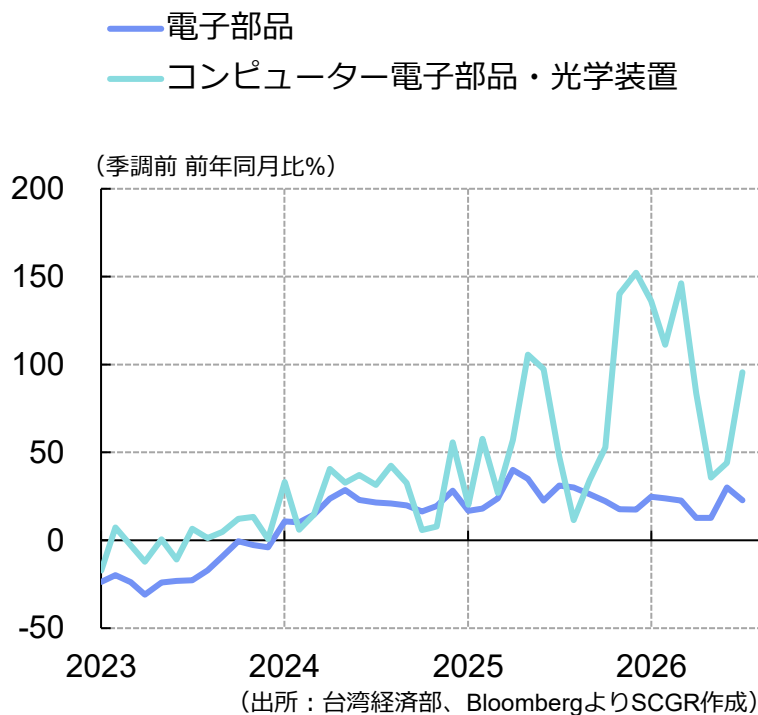
鉱工業生産

- 鉱工業生産は二桁増が継続
- 振れを伴いつつも、高水準の生産活動が続く



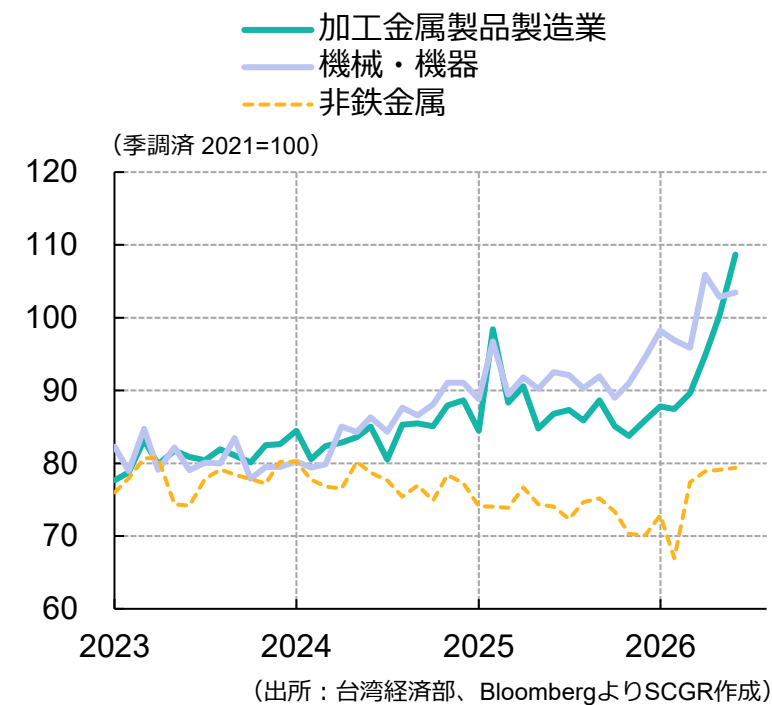
電子・ハイテク産業

- 生産拡大はハイテクへ集中
- 電子関連は高い伸びを維持、コンピューター関連が突出



素材・設備関連

- 金属・機械は持ち直しが進む
- 非鉄金属は回復に遅れ
- 生産回復の広がりはおお限定的

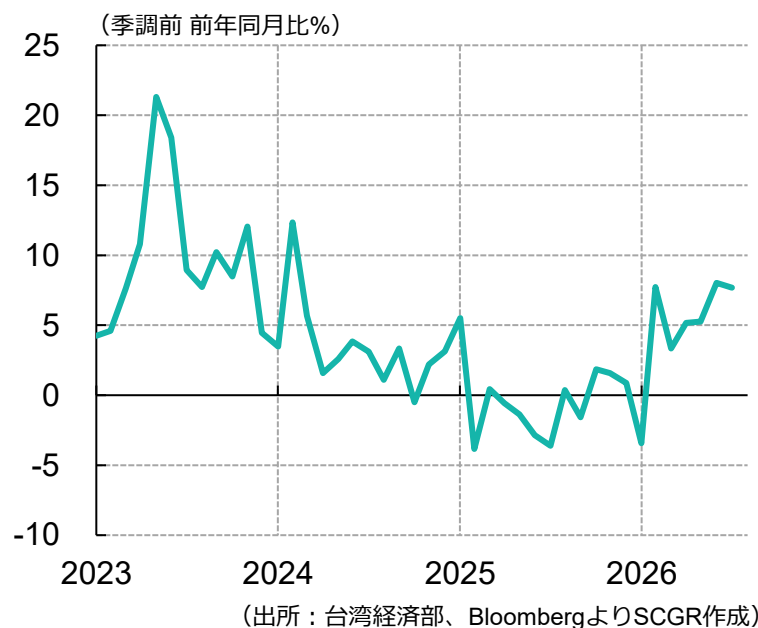


消費・雇用

- 小売売上は持ち直し、失業率も低位で推移する一方、消費者物価は再上昇している
- 製造業賃金は増勢を強める一方、物価上昇が家計の購買力を抑制
- 家計部門は安定を保つものの、消費回復の勢いはなお緩やか

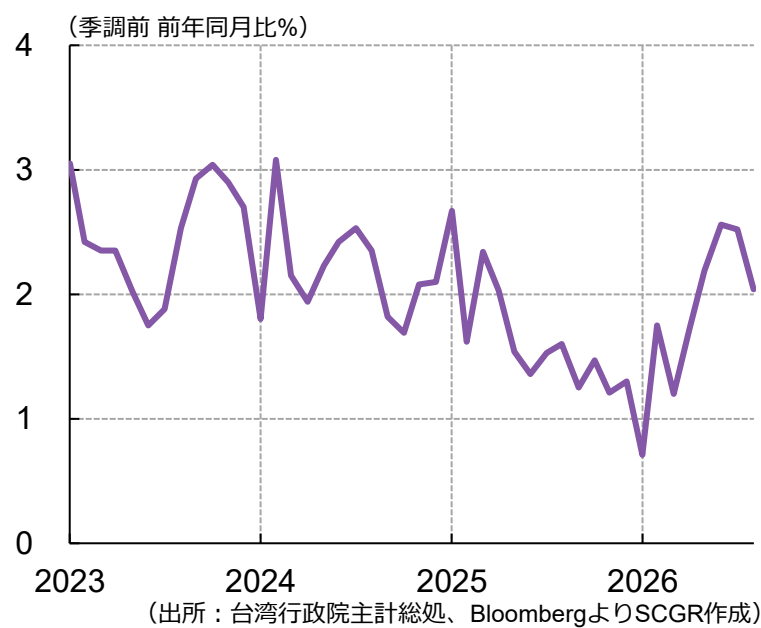
小売売上高

- 小売売上は再び増加基調へ
- 月ごとの振れはなお大きい
- 消費回復の勢いは緩やか



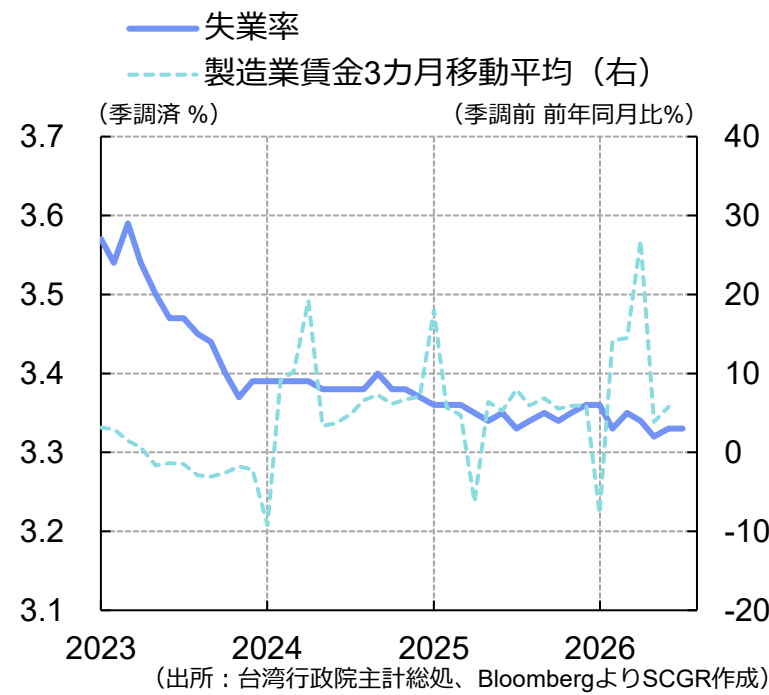
消費者物価

- 消費者物価は再び上昇
- 前年比2%台まで伸びが拡大
- 家計の購買力には下押し圧力



雇用

- 失業率は低位で安定
- 製造業賃金は増勢を強める

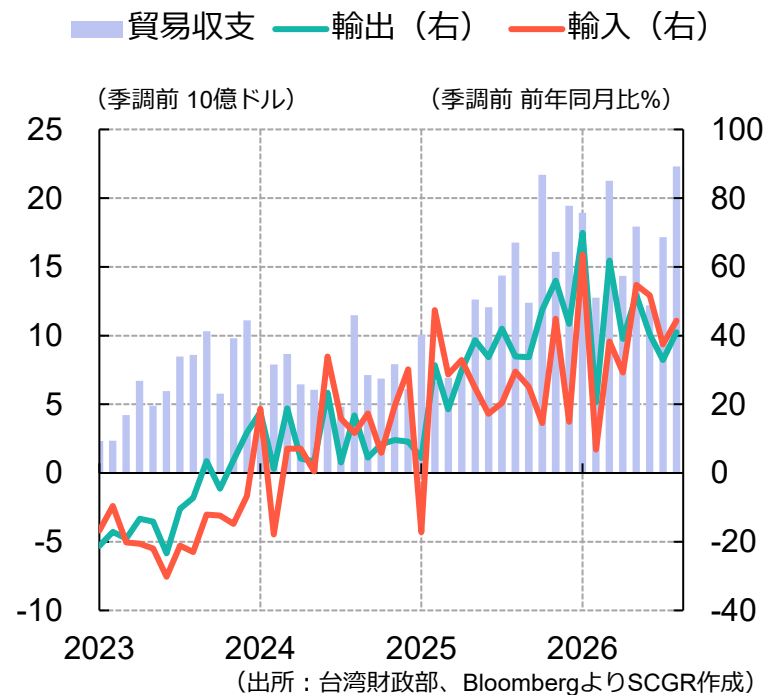


輸出動向

- 輸出入の高い伸びと貿易黒字の拡大が続き、集積回路輸出も加速
- 主要輸出先はいずれも増加し、米国向けの急伸一服で地域間の伸び率格差は縮小
- 外需が生産をけん引し、なかでも電子・米国向けの寄与が大きい

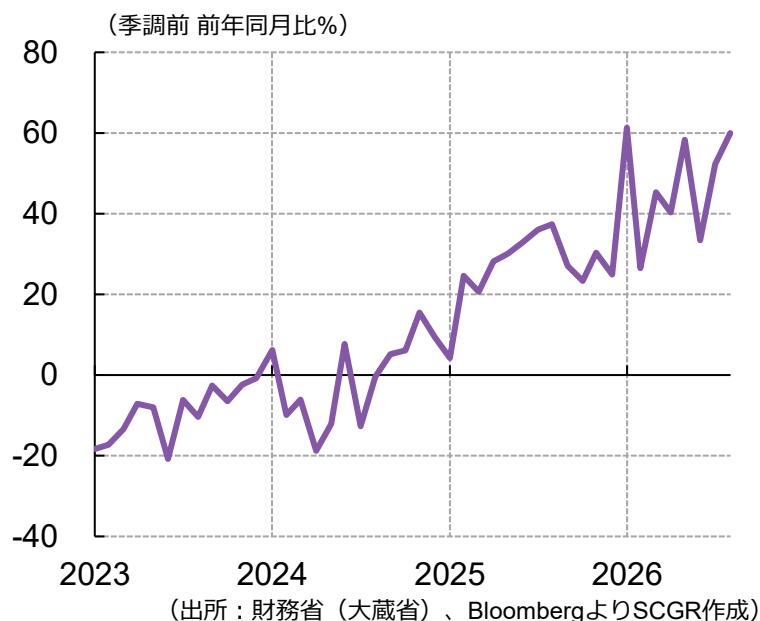
貿易収支

- 輸出入は高い伸びを維持
- 貿易黒字は高水準で推移
- 外需の力強さが続く



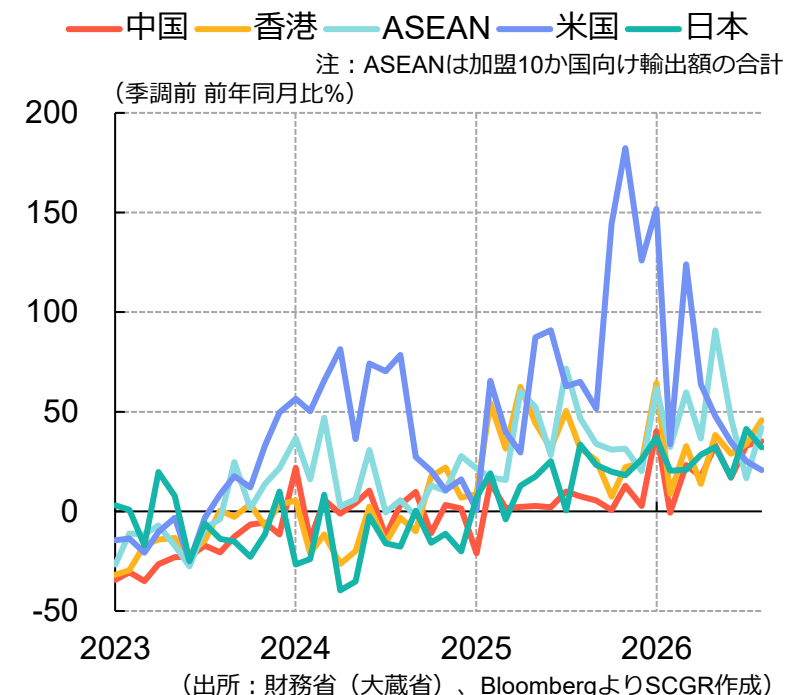
集積回路（IC）輸出

- 集積回路輸出は伸びが加速
- 伸びは高水準で振れも大きい
- 電子需要が輸出拡大をけん引



主要輸出先別輸出

- 主要地域向けはいずれも増加
- 米国向けの急伸は一服



住宅市場

- 住宅取引は前年比で持ち直す一方、月次の振れが大きく本格回復には至らず
- 住宅価格は高水準を保つが、建築許可件数は低位で推移
- 市場の持ち直しは限定的で、住宅部門は引き続き景気の重石

住宅売買件数

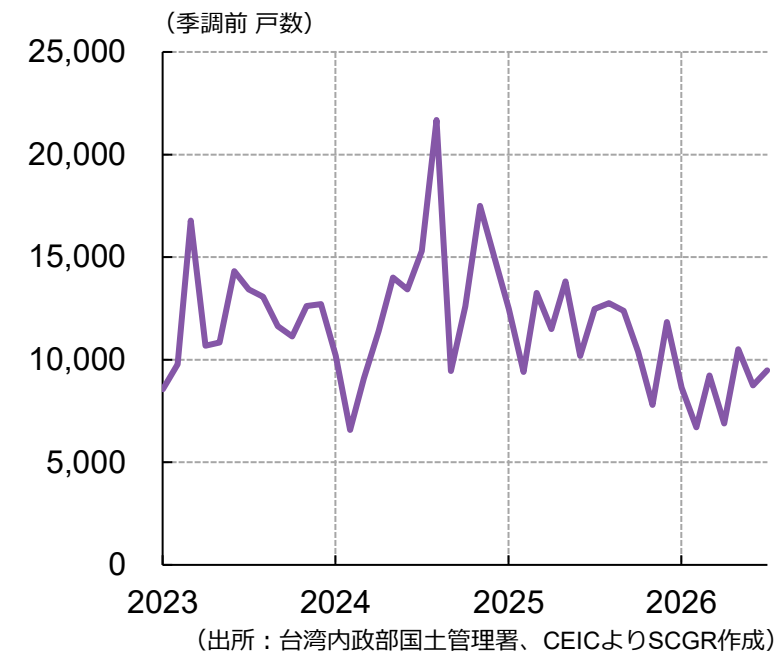
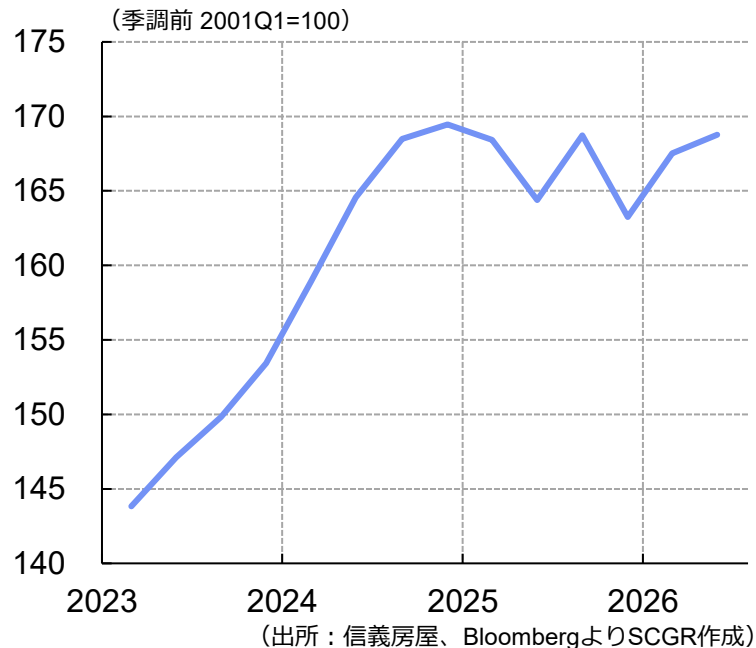
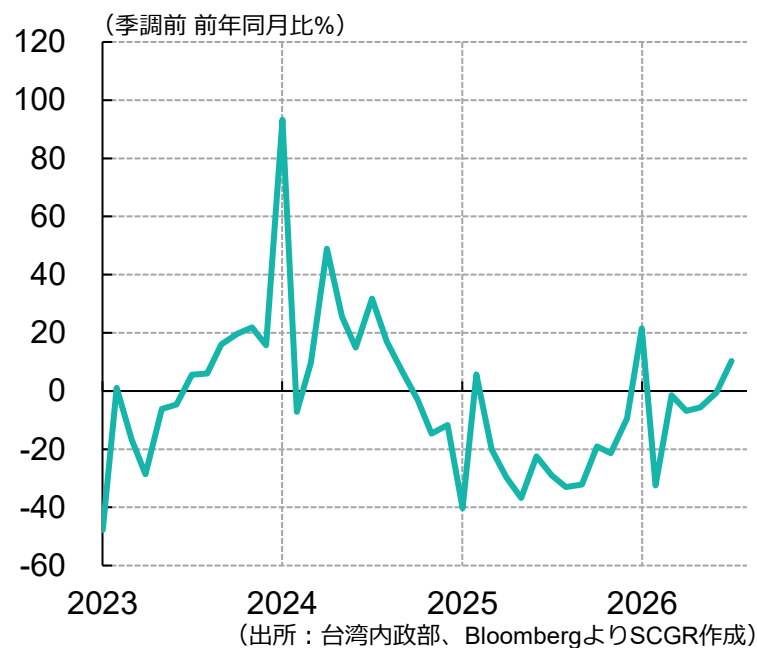
- 売買件数は前年比プラスへ回復
- 月次の振れはなお大きい
- 取引の回復基調はなお弱い

住宅価格指数（台湾）

- 住宅価格は高水準で再び上向く
- 調整局面でも下落は限定的
- 価格の底堅さと取引の弱さが併存

住宅建築許可件数

- 建築許可件数は低位で推移
- 一時的な増加後も弱さが続く
- 住宅建設の回復はなお鈍い

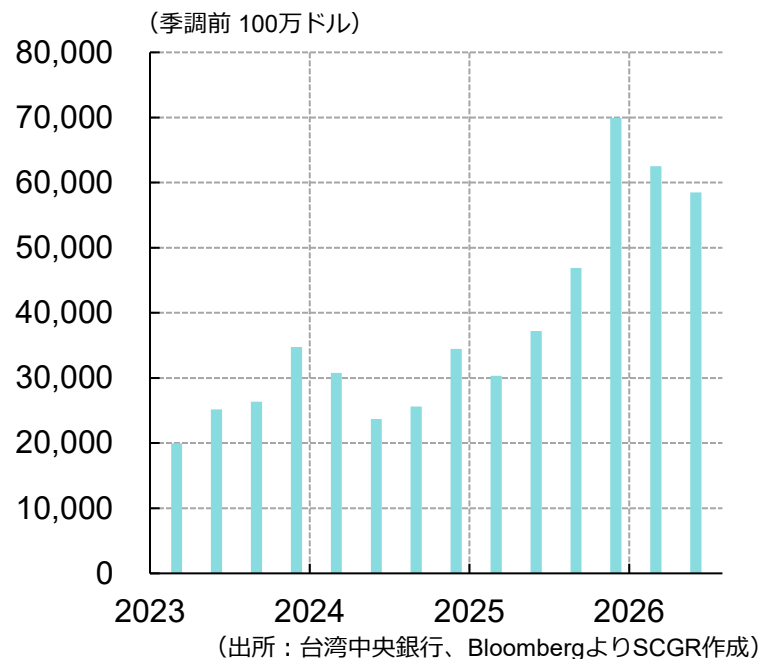


対外部門・資本フロー

- 経常黒字と外貨準備は高水準を保ち、対外面の安定性を支える
- 一方、外国資金は流入の振れが大きく、短期的な変動が続く
- 対外基盤は強いが、短期資金の変動が為替の不安定要因として残る

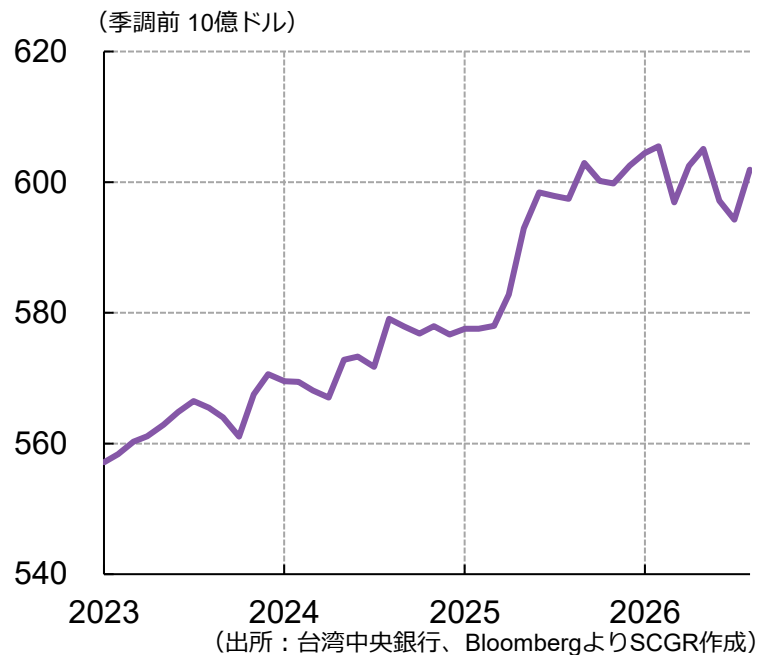
経常収支（四半期）

- 経常黒字は高水準を維持
- 直近はピークから縮小
- 対外収支は引き続き良好



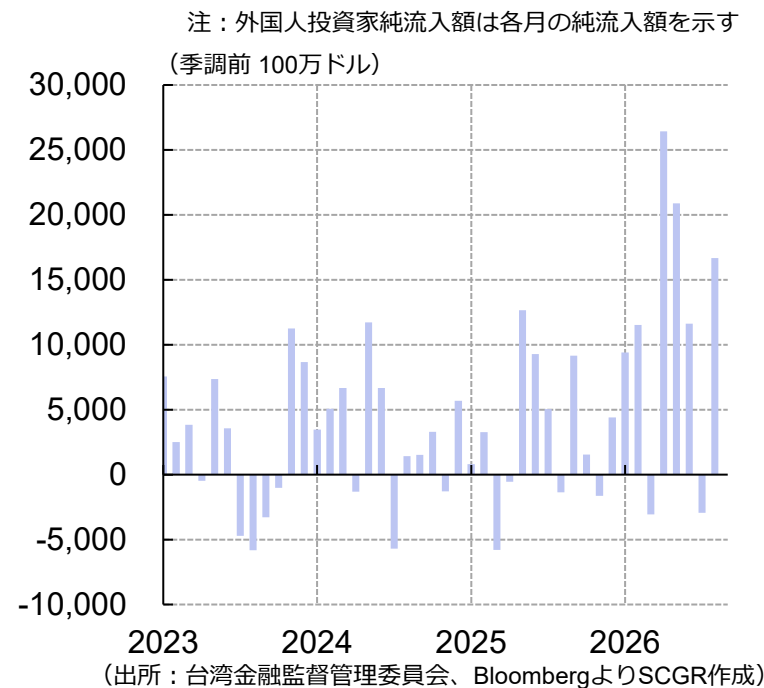
外貨準備高

- 外貨準備は増加基調を維持
- 足元も高水準で推移
- 対外支払余力は引き続き厚い



外国資金純流入額

- 外国資金は直近で流入超
- 月次では大幅な流入・流出が交錯
- 短期資金の変動は為替の不安定要因

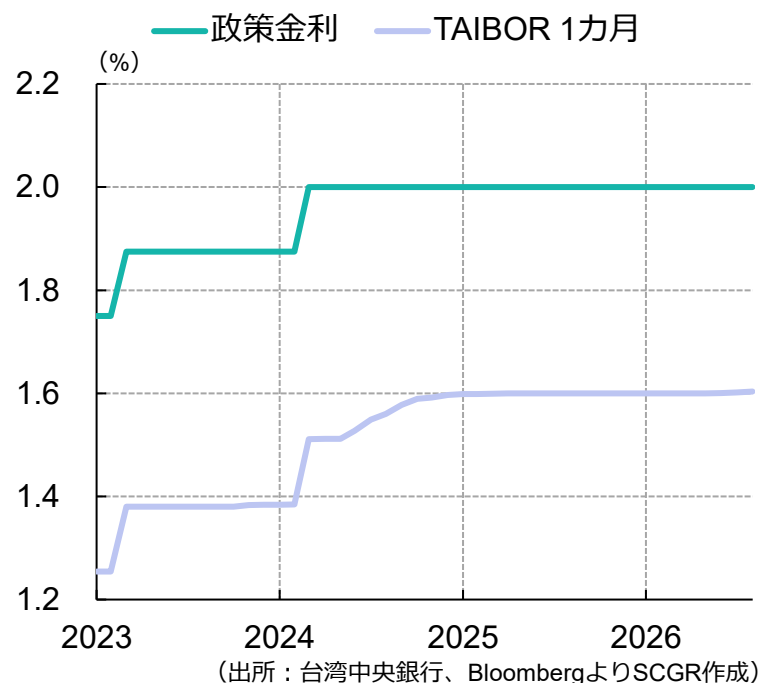


金融・市場動向

- 政策金利は据え置かれ、市場金利も安定して推移
- 為替の変動が大きい一方、株価は高値圏で推移
- 株式市場は堅調だが、TSMCへの集中度は高い

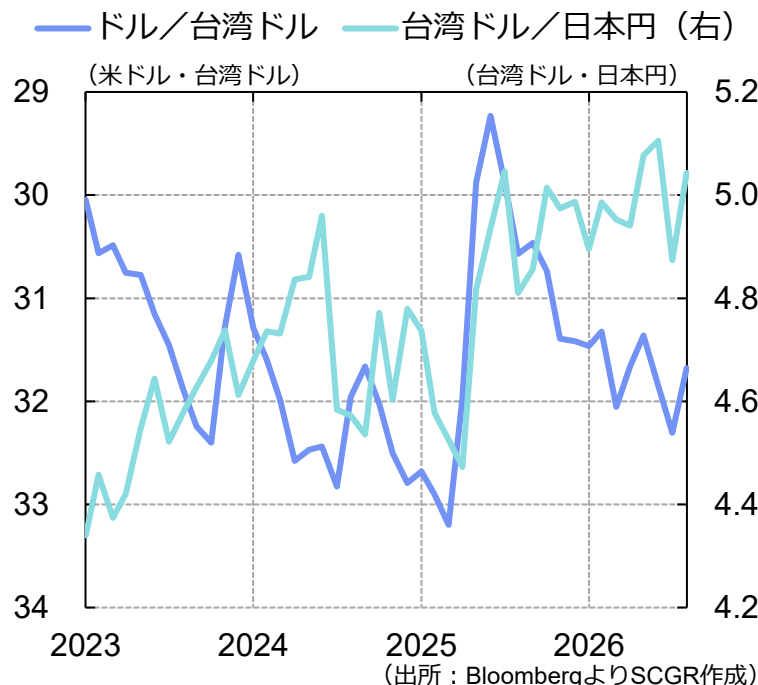
金利

- 政策金利は2%で据え置き
- 短期金利も横ばい圏で推移
- 金融環境はおおむね安定



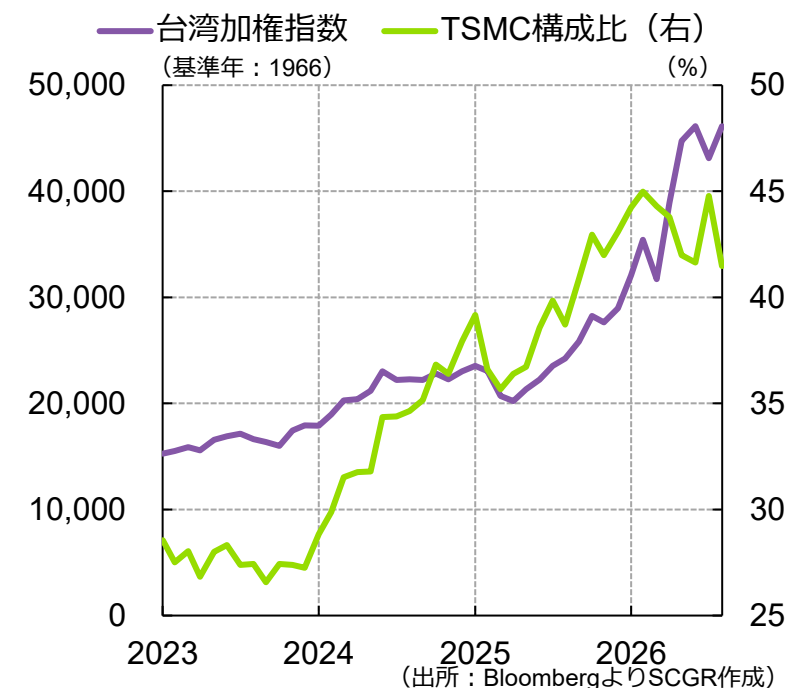
為替

- 台湾ドルは対米ドルで弱含む
- 対円では高水準を維持
- 対ドルと対円で異なる動き



TAIEX（台湾加権指数）とTSMC構成比

- TAIEXは高値圏で推移
- TSMC構成比は4割超の高水準
- 株式市場のTSMC依存は大きい

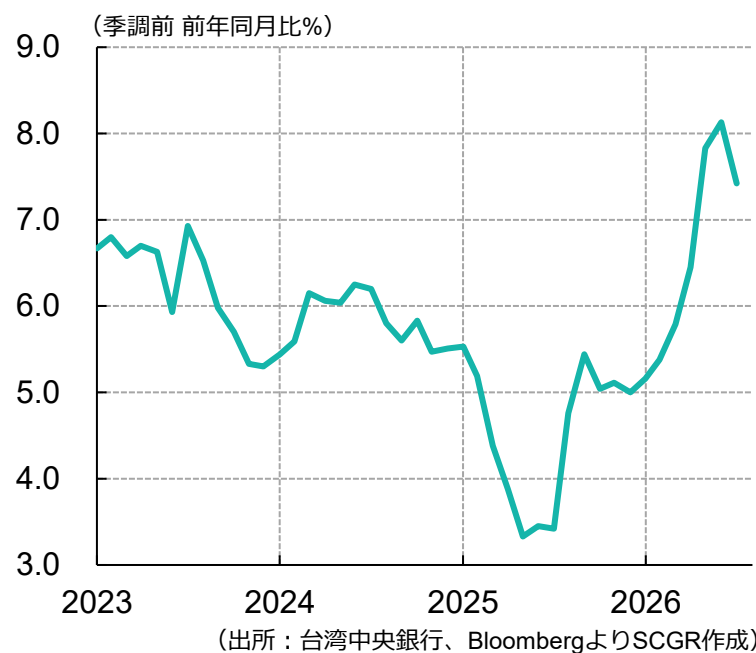


金融・信用動向

- マネー供給と銀行貸出は伸びを高め、信用拡大の勢いが強まる
- 銀行貸出の伸びが消費者信用を上回り、信用拡大にはばらつき
- 信用拡大が進む一方、家計への波及は相対的に弱い

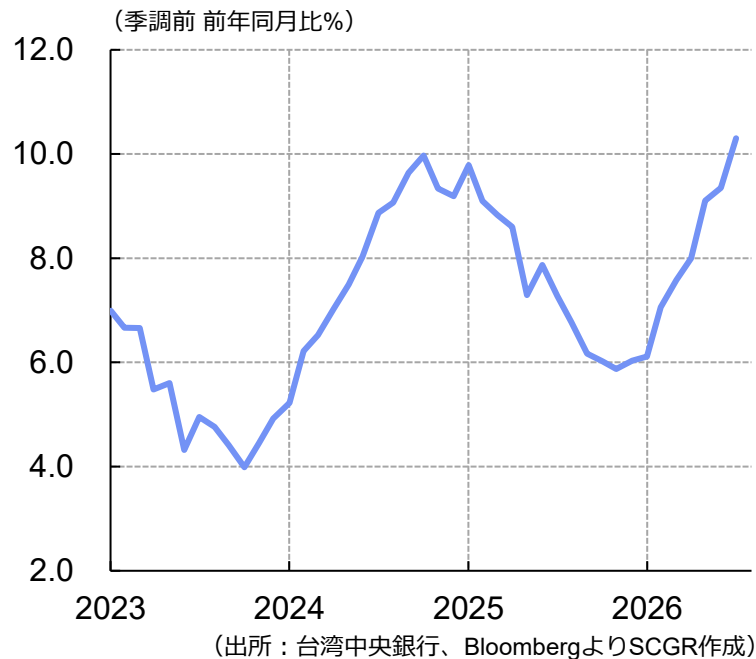
マネーサプライ（M2）

- M2は高い伸びを維持
- 前年の減速局面から反転
- 潤沢な資金量が信用拡大を支える



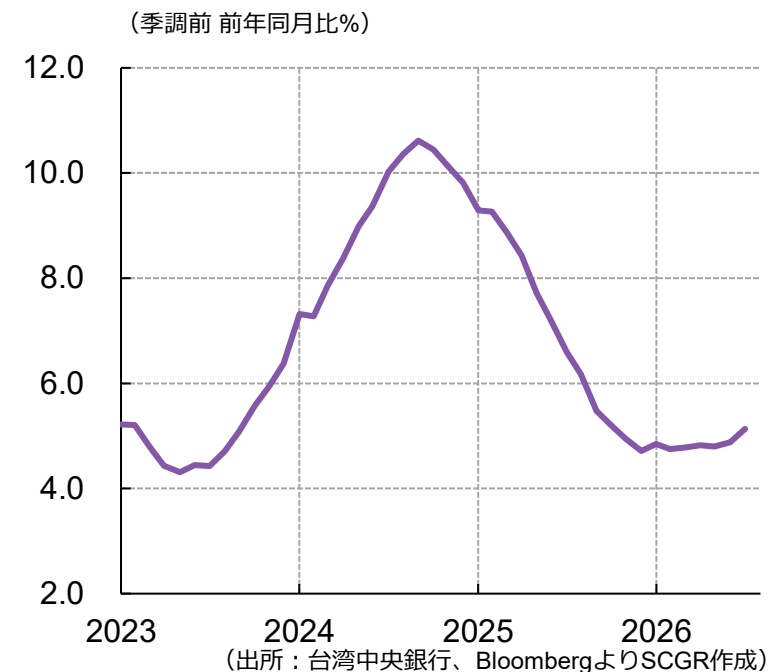
銀行貸出（前年比）

- 銀行貸出は二桁増へ加速
- 増勢は直近で一段と強まる
- 消費者信用を上回る伸び



消費者信用残高

- 消費者信用は5%前後で推移
- 銀行貸出に比べ伸びは緩やか
- 家計信用の拡張は緩やかにとどまる

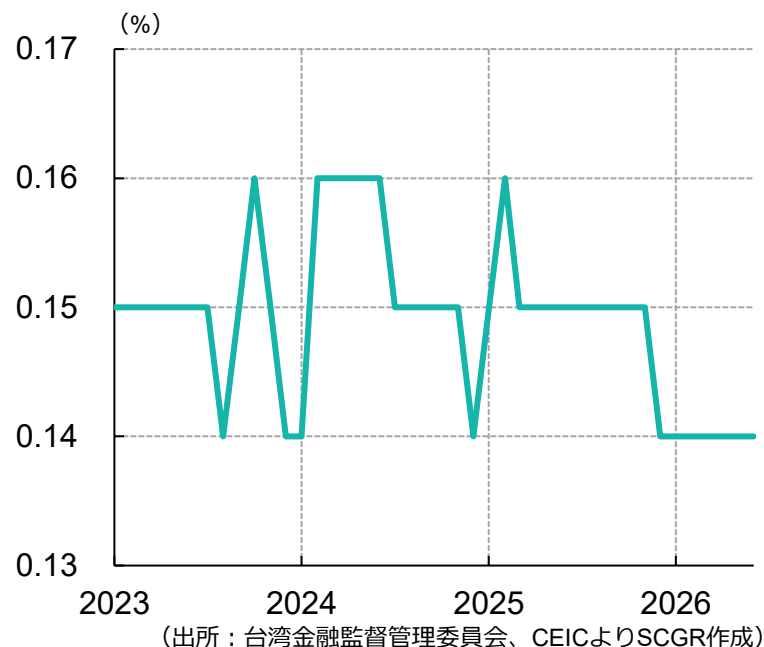


金融・健全性

- 不渡り比率は低位で安定し、中小企業向け貸出の延滞率も低下
- 貸倒引当金は不良債権を大幅に上回り、信用損失への備えは厚い
- 企業信用は安定し、金融部門の健全性は良好な状態を維持

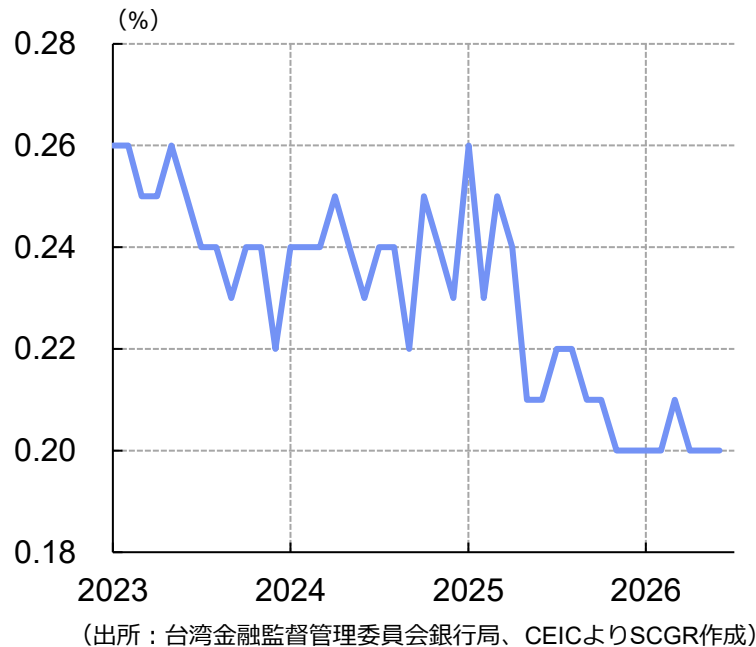
不渡り手形比率（件数）

- 不渡り比率は低位で安定
- 足元は0.14%へ小幅低下
- 企業間決済の悪化はみられない



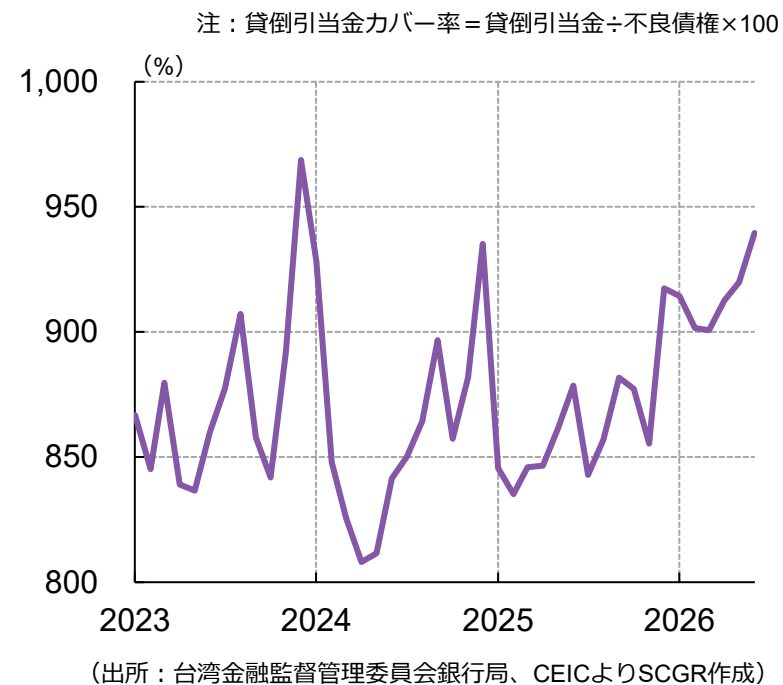
中小企業向け貸出延滞率

- 延滞率は2025年以降低下
- 足元は0.20%前後で推移
- 中小企業の信用環境は改善



不良債権に対する貸倒引当金カバー率

- 引当比率は900%台へ上昇
- 不良債権を大幅に上回る引当水準
- 貸倒れへの備えは厚い

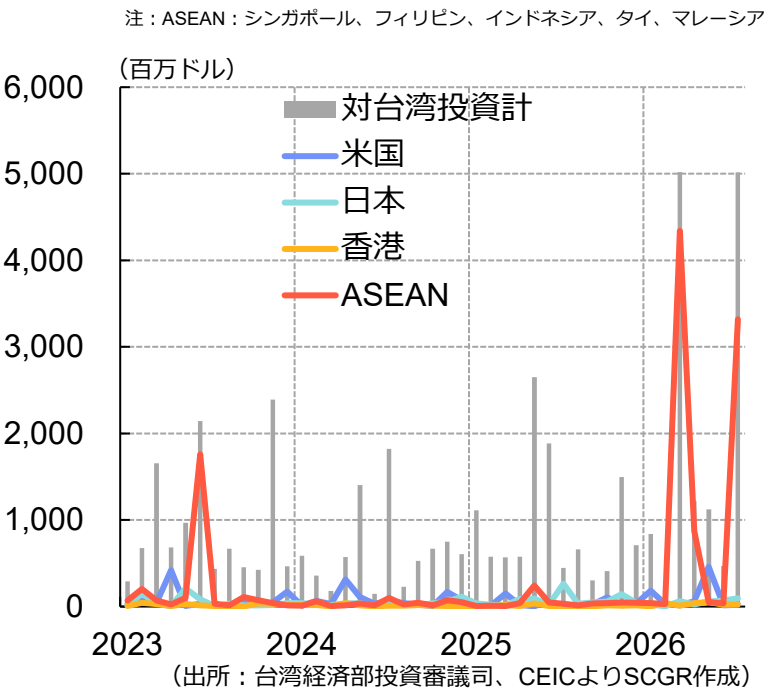


直接投資動向

- 対内外直接投資は直近で認可額が大幅に増加
- 投資件数ではASEANが最大を占め、北米や日本にも分散
- 大型案件による振れが大きく、投資の基調判断には注意が必要

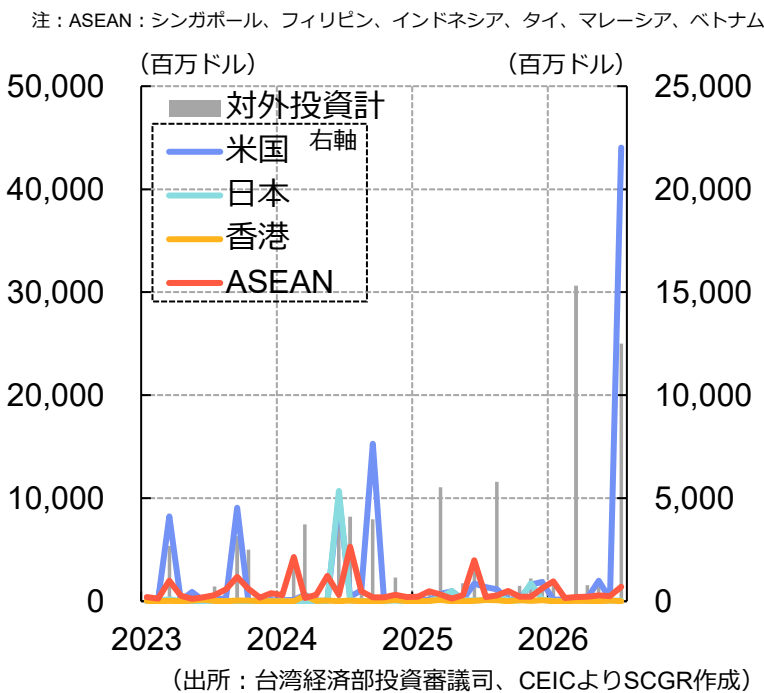
対台湾直接投資（認可額）

- ・ 対台投資は直近で再び急増
- ・ 直近の増加はASEANからの投資が中心
- ・ 大型案件による振れが大きい



台湾からの対外直接投資（中国本土除く、認可額）

- ・ 対外投資は直近で大幅拡大
- ・ 米国向けが突出して増加
- ・ 投資拡大は特定案件の影響が大きい



地域別対外投資件数構成（中国本土除く）

- ・ 投資件数はASEANが最大
- ・ 北米、日本がこれに続く
- ・ 投資件数は幅広い地域に分散

